

第17回 ちゅうでん教育振興助成（平成29年度）

報告書資料 一般 - 55

学校名・団体名	静岡市立中藁科小学校
HPアドレス	<a href="http://www.nakawarashina-e.shizuoka.ednet.jp/">http://www.nakawarashina-e.shizuoka.ednet.jp/</a>
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	「主体的な学び～自分から～」を育む中山間地教育の改革
〈活動・研究の意義、目的〉	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 次期学習指導要領においても、「学びに向かう力・人間性」、未知の状況に対応する力の育成、主体的な学びの必要性が強調されている。そこで、本校では、学校の重点目標を「自分から」とし、主体的な学びを実現し中山間地の教育を変えるべく、授業改善・環境整備に取り組んでいる。</li><li>・ 図書館整備を行い、子ども自らが学べる環境を整え、異学年交流授業・学び合いの授業など様々な形態の授業を取り入れることで少人数においても主体性を育てていく教育を行うことを目的とする。</li></ul>	

### 1 研究推進の主な方策

- 『学び合い』の考えに基づく授業を実践するための職員研修会を行い、授業改善に生かす。
- 図書館の蔵書管理を電算化し、インターネット環境を整え、図書館を学びの基地にする。
- 図書館の蔵書を整理し、子どもたちが利用したくなるような図書館に整備する。

### 2 研究経過 (活動時期および内容)

	取り組みの具体 (内容)	
	授業改善	環境整備
<b>第1ステージ</b> 「考えをもつ」  4、5月	○今年度の授業改善構想の検討、提案 研修テーマ 「自ら聞き取り、思考を深め、的確に伝え合う授業」 ・自ら進んで学習問題について考え、友達の考えを聞こうとする。 ・相手が何を伝えようとしているのかを自分事として聞き、主体的に話し合いに参加し、新たな視点から見つめ考えようとする。 を、研修でめざす子どもの姿と位置づけ、校内研修を推進していくこととした。	○蔵書整理 ・古い本の廃棄 ・今年度購入する本の計画と選定  ○図書館ガイダンスの実施 (図書館の正しい利用の仕方を身に付けさせるため。)
<b>第2ステージ</b> 「考えを伝える」  6～9月	○『学び合い』事前学習会の実施 ・『学び合い』の授業を始めとする主体性を育む様々な形態の授業を学んだ。 ・『学び合い』授業の視聴 ○『学び合い』授業の実施 ・各クラスで夏休みまでに実践。 ○『学び合い』授業の講演会 (7月27日本校にて) 信州大学 教授 三崎隆先生 演題 『学び合い』って何？ —授業に『学び合い』を取り入れる 価値と意義— 〈対象〉 本校教職員	○図書館電算化に向けての準備 ・インターネット環境を整えた。(パソコン、プリンターの購入、設置) ・「探検隊」ソフトの購入 ・図書のデータ作成、取り込みを行った。 ・読書月間 (6月) の実施 (読書に親しませるため、三角くじ、読書郵便など、様々なイベントを行った。)
<b>第3ステージ</b> 「考えを比べる」  10～12月	○『学び合い』研修会の実施 (12月8日本校にて) 信州大学 教授 三崎隆先生 〈対象〉 全校児童と本校教職員、近隣校の教員 〈日程〉 4校時 『学び合い』オリエンテーション 5校時 ライブ出前授業 全校道徳 主題：生命尊重 課外 職員研修会 『学び合い』がもたらすもの	○図書館を学びの基地に ・新システムのガイダンスを実施 (教職員と児童を対象に) ・電算化による貸し出し、返却の開始 ・パスファインダーの整理 (学年ごとに分け、調べ学習をするときに活用できるようにした。) ・図書館にパソコンを常設し、児童が使いたいときに使えるようにした。 ・読書月間 (1月) の実施 (読書の幅を広げさせるための、図書館ビンゴやお話の会、縦割り読書会など、様々なイベントを行った。)
<b>第4ステージ</b> 「考えを深める」  1～3月	○本年度の研修の振り返り (成果と課題)  ○来年度の研修テーマ、めざす子どもの姿、手立てなどを提案	

### 3 成果

#### ①主体的に学ぶ姿

『学び合い』を始めとする様々な関わらせ方を模索し、研修をすすめたことで、子どもたちの知りたい、学びたいと思う気持ちが高まり、子ども同士が関わり合って主体的に学ぶ姿が見られるようになった。また、学習に主体的 (自分から) に向かったときの自分の姿の方が「よりよい」ということが子どもたちの中に価値づけられていった。

#### ②学びに向かう姿勢

授業者が主体的で対話的な学習の場を意図的に設定したことで、子どもたち自身に「自分からやろう」という気持ちが生まれ、学習への興味関心が高まった。

蔵書の整理、電算化など図書館の整備をしたことで、読書意欲の向上だけでなく、授業での図書館使用回数が増え、社会科や総合的な学習の時間などで、子ども自らが情報を求め、追求していく姿が見られるようになった。そして、集めた情報を整理、活用し、より深い学びにつなげていくことができた。